

第2回病院ボランティア国際フォーラムを終えて



市立札幌病院ボランティアの会
“やさしさ・ジェントル”
ボランティアコーディネーター 向井和恵



国内や世界各国で活動する病院ボランティアが集い、活動状況の報告や意見交換を行う病院ボランティア国際フォーラムの第2回が2013年9月12、13、14日の3日間ホテルライフォートにて開催されました。国内外から総勢450名のご来賓や参加者をお迎えし、お蔭様で成功の裡に終えることができました。

今回は「病院ボランティアはいかにあるべきかを学ぶ」ために集い、交流を深めながら学んだ結果、その後10年の歳月を経て、私たちの活動は根付きました。今回、「病院ボランティアからみた社会の現状・課題・展望」をテーマにフォーラムを開催することができましたのは、病院ボランティアが各地で活躍しているそのような成熟があるからこそと思ひ、感謝の下に、秋に相応しい清々しい開催日の朝を迎えることができました。

基調講演では、カン・ヒュン・リー博士は「国際ボランティア活動の現状」について、スーディK.和代博士は「ボランティア活動が大切であることの理由と推進方法」について、参加者に情報と大きな示唆を与えて下さいました。また、分科会では、現代社会が抱えている様々な困難や震災などの自然災害の前でも、お互いが支えあい関わりあうことに価値があり、助け合う仲間を増やし、若い世代に受け継いでいくことの大切さを話し合いました。

終了に際し「経済優先で築き上げてきた私たちの社会ですが、震災、自然災害の前では脆いものであることを知りました。ボランティア活動で培った人間力は社会再生の大きな力になると信じます。磨かれた感性が、未来への力になることを次の世代に伝えていきましょう。」のメッセージを発信しました。

今回は多数の学生が参加したことに併せ、開催のためボランティアが行った活動の他、多くの関係者からご寄附等の力強いご支援を頂き実現できた手作りのフォーラムでした。特にお世話になった病院の皆様を重ねて厚くお礼申し上げ、ご報告させていただきます。



【開会宣言】

ボランティアコーディネーター向井和恵氏



【基調講演の様子】

左)スーディK.和代博士
下)カン・ヒュン・リー博士



【分科会】

テーマ: 緩和ケアにおけるボランティア活動の重要性



【座長】
市立札幌病院
緩和ケア内科
合田部長

【上田札幌市長のご挨拶】

